

訃報—藤井秀夫先生

岡田 保良

Obituary of Professor FUJII Hideo

Yasuyoshi OKADA

本年3月16日、本学会会員で国士舘大学名誉教授、藤井秀夫先生が86年余の生涯を閉じられた。

3月に入ってご家族から容態が告げられてお見舞い上がった折、後進の者たちに向けて発せられた労いが私にとっては先生の最後の言葉となった。昨年春の前立腺検査以降、病院での生活を続けておられたが、やむなく延期となっていたイラクでの招聘講演とともに、本学会恒例の発掘報告会第20回を記念する講演の依頼を受け、病床においてもその準備に余念がなかったそうである。

ここに、追悼の意を込めて故藤井先生のご経歴を振り返ってみたい。

お生まれは1927年（昭和2年）1月。東京高等師範学校附属中学校から高等師範学校、文理科大学東洋史学科（旧制）へと進学、さらに研究科で期限いっぱいまで勉学に勤しみ、1954年にその学籍を終えられている。1961年、国士舘大学政経学部にて助教授として着任、その後同大学教養部教授を経て、1972年に文学部東洋史学科教授に就任。その頃国士舘大学は創設者の意を受けて総合大学へと発展してゆく道程にあり、藤井先生は学部学科等の新設拡充に大いに貢献されたという。

その間の1969年、中央アジアから西アジア、地中海方面の史跡を探訪する機会に恵まれた先生は、イラクの西南沙漠、カルバラ市西方においてアッタール洞窟と出会う。これが先生の生涯にとって一大転機となった。当時のイラク考古総局とのやり取りは詳らかでないが、イラク側から要請を受けてかの洞窟を発掘することとなり、1971年、記念すべき第1次の調査団が送られた。以後76年まで4次にわたる調査を実施。染織品を中心に多数の資料を発見し、この洞窟がローマ時代に並行する稀有な埋葬遺跡であることをつきとめ、世界的にも注目を集めた。

その成果をもとに、国士舘大学は専門的な調査研究機関の設置を決断し、1976年3月、大学直属の附置研究所として「イラク古代文化研究所」が開設の運びとなった。藤井先生が初代所長に就かれたことは言うまでもない。開設時の研究員として川又正智、松本健、小口裕通氏が名を連ねた。以後、アッタール洞窟遺跡のほか、1977年に着

手したイラク東部ハムリン盆地遺跡群の調査を皮切りに、1981年から西イラクのハディーサ遺跡群、1983年から北イラクのエスキ・モースル遺跡群と、水資源開発に伴ってイラク考古庁と共同して行う遺跡調査をつづけた。この間、先生は研究所を中心としながらも広く大学の枠を超えて募った人材を率い、メソポタミア文明の様々な局面を物語る多大な成果を上げられた。1979年には、テル・グッパで発掘されたジェムデド・ナスル期の円形遺構で注目を集めたハムリン遺跡群に三笠宮崇仁殿下がご台臨されている。

1980年代の後半、再び西南沙漠に回帰し、先生はナジャフ近郊の初期キリスト教遺跡アイン・シャーイアの発掘を指揮する傍ら、イラク政府の要請を受け、1988年秋、研究所一丸となつていよいよメソポタミア文明の核心部、シュメール文明の遺跡キシシュの調査にとりかかる。ところがほどなく湾岸危機が到来。イラクにおける調査は中断を余儀なくされ、1997年、先生は現地に戻る機会を得ないまま退官の日を迎えられた。後継の研究所所長には、第2代に大沼克彦、第3代に松本健の各教授が就いた。キシシュ調査のご遺志は松本教授が受け継いで再開を試みたが、9.11事件からイラク戦争へと至る過程で、その望みは再度阻まれ、今日に至っている。

アッタール洞窟の調査に始まって退官されるまでの間、現地調査以外にも藤井先生は数多くの業績を残された。なかでも1980年に出版の始まった研究所紀要「ラーフィダーン」は、内外から高い評価を受けている。そのことは、ブリティッシュアカデミーが1987年に、ミュンヘン大学が1991年に先生を招聘したことにも表れている。

さらに退官された後も、藤井先生の学究意欲は収まらない。活躍は続き、とくに戦争の機会などに乗じて、貴重な



藤井先生



お元気だった頃の藤井秀夫先生（国士舘大学にて）。日本西アジア考古学会通信3号（1998年3月号）より

文化財が不法に取引される現実をたいへん憂慮し、ユネスコで採択された国際条約の批准に心血を注がれた。その功績は、2002年に成立した国内法「文化財の不法な輸出入等の規制等に関する法律」となって実を結んでいる。その後、文化財の違法輸出入に関するお目付け役として、外務省、文部科学省の担当部局に多大な影響力を注がれた。これら長年の教育研究の功績

により、2005年、内閣府より瑞宝中綬章が授与された。

2011年にはカルバラ県とイラク政府から先生を招聘して講演会を開きたいという申し出があり、その機会を心待ちにしつつ先生は病床につかれた。まことに口惜しいことに、その思いは果たされることはなかった。先生の心中をお測りして余りあるものがある。

学会活動など各方面に残されたさらなる足跡の詳細については、ご親交のあった方々のさまざまな思いを集め、改めて報じられる機会があると推察しています。以上、簡略ながら藤井秀夫先生ご逝去の報告といたします。

藤井先生、安らかにお眠りください。合掌。

岡田 保良

国士舘大学イラク古代文化研究所・所長

Yasuyoshi OKADA

The Institute for Cultural Studies of Ancient Iraq,

Kokushikan University